

レースっていいよね  
第 65 回 「笑えない、業界？」 の巻

ずっと前、M 田に言われたコトがある。  
「日本の4輪って、何か暗い、オモロない」  
ヤツが何をもって、そう言い放つのか……。

とはいえ、なんとなく思い当たる節はある。  
一般的には「レース」というと、何だか華やかで煌びやかな世界だと  
捉えられやすい。  
ヤツが「一般的」思考によるイメージで一概に語っていない辺りが、逆に  
その信憑性……というか、よくぞ気付いたな、って感じなのである。

笑いにうるさい奴の言う「暗さ」とは、おそらくは「人間性」に起因するもの  
であろうと推察するが、もっとも、だからと言って関係者が皆、根暗な訳では  
無し、根アカどころかまるで芸人のようなヒトだって、私は知っている。  
かくいう自分自身にしても、極力、日々笑いを絶やさぬよう、常にネタを収集し  
いかに笑いをとるかを鑑みてはいるのだが。

にしても、M 田の情報源はメディアに頼っている訳だけど、その主たるテレビで  
4輪のレース番組を見ていると、確かになんだか暗い。  
そうそうたる出演者と、映像脚色は引けを取らないけど、トータルイメージで暗い。  
実況がどんなに声を枯らして絶叫しても、どんなに芸能人がいても、もはや  
そう言う問題ではない。年を追う毎にそう感じるのは気のせいだろうか……。

一見、華やかな番組構成である民放のレース番組だけど、意外とNHKのほう  
が実は面白かったりする。  
実況・解説共々、決して派手ではないけど、必要にして的確、しかもにじみ出る  
キャラクターの妙、がある。  
たぶん、M 田の言う「暗さ・明るさ」から来る、面白さの基準はこの辺にあるのだろう。

面白さ = 無茶、やんちゃ、脚色 といった、人為的に練り上げたもの……  
では無く、あくまでもそれは「にじみ出てくる」モノでなくてはならない、ということか。  
それができるのは、芸人だけなのだろうか。

そういえば、以前BBCで自動車をメインにした番組があった。今も在るのかな？  
くしくも、これもまた国営放送ではあるのだけど、これがまた、実に面白かった。  
内容に大した意味は無いのである。

カトリックの坊さんの中で誰が速いか、とか、ロンドンで普段バンを使う運転手  
(郵便屋とか牛乳屋、とか……)の中で誰が一番速いか、など。  
基本的に誰が速いかを決める、というパターンが多かった気がするが……。

また、そんなくだらない企画にラリー仕様に本気改造したフォードか何かのバンを  
使ったり、ロータスエリーゼを使ったりするところがまた笑える。

はたまた、白髪の上品そうな(←ココがポイント)ばあさんにホンダ S 2000で  
アクセルターンを調教したり。

また上手いことに、そのばあさんもコツを掴んで、クルクルと白煙を上げながら嬉々として廻り続けるのである。  
しかも、どんなに上手く廻ろうが、豪華賞品が貰える訳ではなく、誉めてもらえる、ただそれだけなのだ！

こうなると脚色云々ではなく、絵面だけで意味なく無性に笑えるのである。  
しかしまあ、よくも毎回毎回、アホな企画を搾り出せるものだ、と、つくづく感心する。  
さすがにモンティパイソンを産み出したお国柄、なのである。  
しかし、そんなアホな企画を本気でやる所がまたスゴイ。

日本でもクルマを使って何かする、って言う企画は多いけど、出演者はせいぜいタレントどまり。なんだか、突き抜けてない。  
しかし、実はこの辺りに自動車が本当に好きな国と、好きそうに見えるだけの国との文化的な大きな違いが垣間見えはしないだろうか。

「面白い」という感覚は千差万別、個人差は当然あるだろうけれど、それでもたぶん「意味無く面白い」モノは、大抵の場合ウケるのではないだろうか。  
予備知識が無くても、特に興味が無くても、なぜか気になる。  
面白い、ってのは根本的にそう言うこと、なんだろうな。

(27Jan04)

